

京大図書館 最強ユーザ へのルートマップ 20240508

レベル	基礎	初級	中級	上級	研究での実践
こんなときに	はじめて図書館を使うときに	はじめてのレポート作成の前に	一步進んだレポート作成のために	学術的な論文(卒論以上)執筆のために	よりよい研究生生活のために
レベルの目標	レポート・論文作成のために、京都大学で利用できるツールを把握する	与えられたテーマ・情報源をもとにレポートを作成する	与えられた課題の中で自身のテーマを設定する 先行研究を調べた上で、自分の意見を含んだレポートの作成・発表をする	自身の調査・研究テーマを設定し、学術的な論文の作成・発表をする	研究の現場の中で、情報を効果的に活用する
学年のめやす	学部1回生 新たに京大に入った方	学部1,2回生	学部2,3,4回生	学部4回生 大学院修士課程	大学院生以上
レベル目標の達成基準					
1. 学術情報の探索計画を立てる	大学図書館の利用方法	学術情報の種類と特性	調査テーマに沿った情報源の選択	専門分野の学術情報の計画的な収集	自身の問題意識に沿った幅広い先行研究の探索
大学という場での、学習・研究にふさわしい情報の探索を計画する	<ul style="list-style-type: none"> □ 学内の図書館を適切に利用できる。 □ 京都大学が提供している電子ブック・電子ジャーナル・データベースの存在を把握している。 □ 貸出・予約・レファレンスサービス等、文献入手に関わる図書館サービスを利用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 図書、雑誌、新聞、視聴覚メディア・インターネット等、情報・メディアの種類や特性を説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 調査テーマに関する先行研究の検索を行うことができる。 □ 課題の解決に適した信頼性の高い情報源を推測できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 自身の専門分野において、どのような学術情報が、どの媒体で発表されるのかを把握している。 □ 情報探索計画を立案・実施できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 自身の専門分野において、どのような学術情報が、どのタイミングで発表されるのかを把握している。 □ 遺漏の無い徹底した先行研究の検索ができる。 □ 自身の専門分野以外においても、自分の研究テーマに関係がある先行研究を幅広く検索できる。
2. 学術情報を的確に入手する	KULINEでの資料検索	参考・引用文献リストの活用	調査テーマに沿ったデータベースの活用	検索方法の調整と他機関所蔵文献の活用	国内外の様々な機関の文献収集
探索計画に基づき、必要な情報を適切・効率的に入手する	<ul style="list-style-type: none"> □ 図書館の蔵書検索ツールを利用し、指定された資料を検索できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 参考・引用文献リストを適切に読み取り、調査に活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 課題に応じて適切なメディア(図書・雑誌・新聞・視聴覚メディア・インターネット・人的情報源)を選択できる。 □ 文献検索の検索語(同意語・上位語・下位語)を工夫し、演算子(AND・OR・NOT)を利用し、データベースを検索できる。 □ 自身の研究テーマに合致した、適切なデータベースを選択することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 望ましい情報が得られなかった場合、行った検索プロセスを評価し、データベース・検索式・キーワードなどを見直すことができる。 □ 他機関の図書館から文献を取り寄せるなど、図書館のサービスを必要に応じて利用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 情報の所在とアクセス方法を理解し、必要に応じて、国内外の図書館以外の機関(公文書館・官公庁・NPOなど)から情報を入手できる。
3. 学術情報を評価し、整理して管理する		文献の内容把握と取捨選択	文献の評価と管理	文献の批判的な評価と効率的な管理	学術情報の評価指標の活用
収集した情報を活用する前に批判的に分析し、整理・管理する		<ul style="list-style-type: none"> □ 学術的な文章の要旨をまとめることができる。 □ 情報を取捨選択し、活用できるように整理できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 入手した情報の正確性と、調査テーマとの関連性を評価できる。 □ 資料リストを作成し、管理できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 批判的思考をもとに、入手した情報の論理性・合理性・正確性・関連性を評価・分析できる。 □ 文献管理ツールを使用して、収集した文献情報を整理して活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 論文の被引用数、インパクトファクター等の評価指標の特性を理解し、情報の評価に活用できる。 □ 学会誌の書評などを参照し、新しい研究成果を適切に評価できる。
4. 学術情報を適正に活用・発信する		レポート執筆の基本	適切な論述を行うためのポイント	学術論文の執筆	論文投稿の留意点
研究倫理に留意し、また適切な構成でレポート・論文を書く		<ul style="list-style-type: none"> □ 構造的なレポートが書ける。 □ 引用と剽窃の違いが説明でき、適切に引用できる。 □ 参考・引用文献リストを作成できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 事実に基づき、理論的な根拠を示しながら、問題提起に対応した主張を論理的に述べることができる。 □ 図表・音声・画像を適切に活用できる。 □ 知的財産権・著作権・個人情報保護等の情報倫理に配慮できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 情報を活用するプロセスや明瞭性・正確性を把握できる。 □ 学術論文の構成に沿って文章を記述できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 論文を投稿する際に最適なジャーナルが選定できる。 □ ジャーナルの規定や査読者への対応を十分に理解した上で投稿できる。 □ 研究成果をどのような形で発表するのが最も効果的なのか、戦略を立てることができる。 □ 様々な形のオープンアクセスを理解し、適切な方法で研究成果をオープンアクセス化できる。 □ 学術研究において求められる倫理的配慮に留意できる。

「高等教育のための情報リテラシー基準 2015年版」(2015年3月 国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会)を基に作成